

イーマ第92回 阿部博幸先生 講演録 200911.24

テーマ「究極のがん治療 -放射線で苦しめない・切らない抗がん剤-」

【阿部博幸先生プロフィール】

医療法人社団博心厚生会九段クリニック理事長、杏林大学客員教授。

1938年生。医学博士。1964年札幌医科大学卒。慶応義塾大学医学部付属病院にてインターン終了後、米国留学。ペンシルバニア大学小児病院及びクリーブランド・クリニックにてフェローを務める。順天堂大学講師、日本大学助教授を経て、スタンフォード大学客員教授、カリフォルニア大学客員教授を歴任。また、日本循環器学会専門医、日本冠疾患学会会長、一般社団法人国際統合医学会理事長も務める。多くの患者さんの診療にあたりながら、人に優しい医療、人生の幸せに結びつく医療を目指して日夜取り組んでいる。

■2人に1人が癌になり、3人に1人が癌で亡くなる時代になった。

本当は誰でも毎日体内では癌細胞ができる。癌が発病するかどうかはNK細胞が元気かどうかで変わる。

■性別における癌の種類：

男性：肺がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、膵臓がんの順に多い

喫煙者が禁煙した後、5年すれば肺が綺麗になるというのは嘘。

女性：大腸(便秘日本人は腸が長い)、肺がん(女性は副受煙が原因多い)、胃がん、乳がん、子宮がんの順

■地域における癌の種類：

都道府県別の癌の多い地域：トップは青森県、佐賀、和歌山、大阪

癌が少ない地域：長野、沖縄

癌の種類別：膵臓癌は北海道、青森、山形が多い

胃癌：新潟、秋田、青森など塩分(発がん物質)を摂取する地域、ピロリ菌など食文化が関与している。

アメリカでは胃がん少なく、大腸がんが多い。

■がん治療の三大治療

○手術治療

○放射線治療

○抗癌剤治療

■薬は反対から読むとリスク

■新薬：胃癌のトラスツズマブの有効性 生存期間が2カ月延びたが副作用に苦しんでいるのが現状。

■手術・放射線・化学療法→それでも癌はなぜ治らない

■乳がん：治療をしない自然予後の5年間生存率は20%（1936年のデータ）

化学療法後のアメリカの癌センターのデータで5年間生存率も20%（1996年のデータ）

結論：苦しい思いをしても何もしないのと何も変わっておらず、抗ガン剤は致死量の薬を小分けして投与しているだけ？

■癌の真犯人？ガン幹細胞は IPS 細胞と似ている為、がんは死なない

遺伝子のミスコピーが重なって今日に至っていて、人間が進化する度にがんになりやすくなっている。がん細胞のもとになっているものがガン幹細胞で、自分の分身を増やす力がある。

その為、癌を治す為にガン幹細胞を狙え！

放射線療法、化学療法でガン細胞は死んでも、ガン幹細胞は死なない。その為、再発する。

だから根源であるガン幹細胞を殺す必要性がある。

ガン幹細胞の退治法の方向性は免疫細胞療法にあり

■ 2つの免疫細胞療法

①活性 NK、NKT 細胞（自然免疫、抗原非特異的免疫）

②樹状細胞がんワクチン（獲得免疫、抗原非特異的免疫）

上記2つを組み合わせたハイブリット免疫療法

単球を取り出す→細胞加工培養する→癌細胞をターゲット

がん抗原では人工抗原の中で WT1 が最も重要。WT1 を使って治療。

■樹状細胞(DC)がんワクチンの効果増強策

①DC がんワクチンと活性化リンパ球療法との併用

②ビタミン C 高濃度点滴療法（がん細胞のアポトーシス誘導）

③温熱療法(局部深部、全身)熱によるがん細胞の死滅、免疫力の増大

④低用量抗ガン剤(シクロホスファミド、メソトレキセート、5-Fu)レギュラトリーT細胞の抑制

⑤トモセラピー（ピンポイント）などの放射線療法、IMRT

■これからは、統合的がん治療の時代へ

■がん免疫細胞療法の5つの目標(症状により異なる)

①QOL(生活の質)の改善

②延命効果

③がん増殖・転移の抑制

④がんの収縮

⑤がんの消失

*①～②は 100%の効果、③～⑤は 60%～75%以上の効果

■標準治療では効かない進行した膵臓がんに対する樹状細胞療法の治療成績

臨床効果	完治	部分寛解	不変	進行	合計
患者数	2	7	5	4	18
%	11.1%	38.9%	27.8%	22.2%	100%

完治+部分寛解：50%、有効：77.8%

■当院の樹状細胞がんワクチンの特徴と他のワクチンとの相違

メラノーマ患者におけるがんワクチンの臨床成績

ワクチン種類	総患者数	有効性	有効率(%)	文献
ペプチドワクチン	410	11	2.7%	12,144,145
ウイルスベクター	160	3	1.7%	12
腫瘍細胞	43	2	4.6%	146,147
樹状細胞	116	11	9.5%	12,57,58,62,65,148

■樹状細胞がんワクチンの特徴

- ①樹状細胞は自分の血液から作る
- ②自己がんまたは人工抗原を使う
- ③キラーT細胞が抗原分子を標的にしてがんを攻撃
- ④WT-1 を使える(特許使用)
- ⑤色々ながんや肉腫に適応がある
- ⑥副作用がない
- ⑦通院だけで働きながら治療ができる
- ⑧大学および研究機関で有効率が確認されている
- ⑨他のがん治療との併用が可能
- ⑩テーラーメイドの医療である

■治療自体は100%効くが、その人の食事、運動、睡眠、基礎体力、それに気力、智力、慈力、霊力にも結果は変わる。

■適切な時期に治療ができればがんの撲滅は目前に近い

■がんの危険信号8カ条

- ①胃：胃の具合が悪く、食欲が無く、好みが変わったりしないか
- ②子宮：おりものや不正出血がないか
- ③乳房：乳房の中にしこりがないか
- ④食道：飲み込む時につかえることはないか
- ⑤大腸：便に血や粘液が混じったりしないか
- ⑥肺・喉頭：せきが続いたり、痰に血が混じったりしないか声がかすれないか
- ⑦舌・皮膚：治りにくい潰瘍はないか

⑧腎臓・膀胱・前立腺：尿の出が悪かったり、血が混じったりしないか

■がんを防ぐ8カ条

①禁煙

②適度な飲酒。一日に日本酒一合、ビール大瓶1本以内

③野菜・果物は毎日400グラム

④食塩は1日10グラム未満

⑤毎日60分程度の歩行、週一回の汗をかく激しい運動

⑥BMI(体重を身長²で割った体格指数)を20～27に維持)

⑦熱い飲食物は最小限に。飲料は冷まして飲む

⑧肝炎ウイルス感染の有無を知る

以上